

ルカト云フコトニ付テハ是ハ當事者モ別段ニ殊更ニ定メス又法律ノ規定モ之ヲ示サヌ場合ガ多カラウト思ヒマス夫レ故ニ本案ニ於キマシテハ契約又ハ法律ノ特別ノ規定ニ別段ノ定メナイ場合ニハ葡モ契約ヲ解除致シマシタナラハ斯ウ云フ結果カ生スルモノテアルト云フ通則文ケ示シマスル目的ヲ以テ此處ニ一語ヲ置イタノテゴザイマス夫レテ本案ノ始メノ一箇條ハ解除ノ方法ヲ示シマシタ五百三十九條カラシテ五百四十一條迄ハ法律上如何ナル場合ニ於テ解除カ出來ルモノテアルカト云フコトヲ示シマシタ次ニ多數當事者ノアル契約ノ解除ノ場合ヲ掲ケマシタ終リニ五百四十三條五百四十四條ニ於テ解除ノ效果ヲ掲ケマシテ然ウシテ終リニ五百四十五條及ヒ五百四十六條ノ二箇條ニ於テ解除權ノ消滅致シマスル場合ヲ掲ケマシタノテアリマス

議長（笑作麟祥君） 表題ニ付テ別ニ御發議ガナケレハ本條ニ移リ

マス

（書記朗讀）

第五百三十八條

契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

（参照）財四二一、二項、四二二、五六一、取八一、佛一三三四、一一八四、一六五六、蘭一三〇二、伊一二三六、一六五、三項、瑞債務法一二二、獨一草四二六、同二草三〇〇

穂積陳重君 本條ハ契約解除ノ方法ヲ示シマシタモノテアリマスル、デ契約ヲ解除致シマスル方法ハ通常即チ法律上當然解除ニナリマスル主義ヲ採ツテ居ル所モアリマスルシ又或國ニ於キマシテハ

第五百三十九條

當事者ノ一方ガ其債務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

(参照) 財四二一、取八一、商三二三、五四五、佛一一八四、一六五四乃至一六五七、澳九一九、九二〇、蘭一三〇二、一五一六、一五五三、一五五四、伊一一六五、葡七〇九、一五八五、瑞債務法一二二、モンテネグロ五四八、西一一二四、白草一一八一、獨一草四三六、同二草三〇九、同商三五四乃至三五六、索一四三六、巴草二編三六五

穂積陳重君 本條ハ則チ法律ノ規定ニ依テ當事者ノ一方ガ解除ノ權利ヲ有スル場合ヲ規定シタモノテゴザイマス、デ既成法典ノ財産編四百二十一條ニ當リマシテ少シク其範圍ヲ殊ニ致シテ居ルノテゴザイマス既成法典ハ双務契約ノ場合ニ於テ其當事者ノ一方ガ債

務ヲ履行致シマセヌ時ニ於テハ他ノ一方ヨリシテ之ヲ解除スルコトガ出來ル即チ其債務ノ不履行ト云フモノガ解除條件ヲ含ムト云フコトヲ第一ニ規定シテ居リマス、デ其解除條件ノ成就ト云フモノハ當然解除ノ效ヲ生セスシテ裁判所ニ之ヲ請求スル丈ケノ權利ヲ生スルト云フコトト夫レカラシテ裁判所ニ之ヲ請求シタトキニ於テ裁判所カ尙ホ之ヲ實行セサル見込カアルナラ——— 双方ニ害カナクシテ實行サセルコトカ出來ルト云フコトヲ見込ンタナラハ恩惠上ノ期限ヲ與ヘルト云フコトカ舊イテアリマス第一ニ前ヨリ申述ヘマシタガ如ク此解除條件ト致シマスルノハ法律上不當ナコトテアリマシテ固ヨリ双務契約ノ場合ニ於テ積極的ニ一方カ行使スレハ——— 之ヲ履行スレバこちモ履行シヤウト云フ積極的ノ方ナラハ當事者ノ意思ニ於テモ或ハ直チニ解除ヲ爲スト云フコトガ出來ルカモ知レマセヌ併シナカラ始メヨリ向フガ履行シナ

又ハ法律ノ規定ニ依リ「ト云フコトヲ取ツテ戴キタイ今ノヤウニ改マルト此五百三十八條ハ契約ノ場合丈クニシテ置カヌト可笑シクナリマスカラ御注意マテニ申上ケテ置キマス

横田國臣君 私ハ契約ノ方モ取ツテ仕舞ツテモ宜カラウト思フ

梅謙次郎君 夫レハ往カナイ

議長（西園寺侯） 夫レテハ決テ採リマス横田君ノ修正説ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

議長（西園寺侯） 少數、他ニ御異議カナクハ原案ニ確定致シマシテ次ニ移リマス

（書記朗讀）

第五百四十條

契約ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ノ目的ヲ達スル能

ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サスシテ直チニ其契約ヲ解除スルコトヲ得

（參照）**瑞債務法一二三、一二四、二三四、モンテネグロ五**

四五、獨商三五七、索八六五、巴草二編三六六

穂積陳重君 本條ノ規定ハ殆ント説明ヲ俟タヌコトデアリマシテ一口ニ申シマスルト云フト契約ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依テ時期ニ遲レタ履行ト云フモノハ無効ニ歸スル場合ナノデアリマス或ハ前ニ出マシタガ如ク時ノ定マツタ宴會ノ料理テアルトカ其他冠婚葬祭ノ如キ日ノ定マツタ時ニ入ルモノテアル又場合ニ依リマスルト時ノ定マツタトキ、何時ニ出帆スル船ニ乗り込ム其時ニ辨當ヲ持ツテ來ルトカ然ウ云フ風ノ時ノ定マツテ居ル場合カアルカモ知レヌ又永イ間ノ時間ガ定マツテ居ルコトモアル其場合ニ其性質上

モナノテアツタノテアリマス損害賠償ノコトハ固ヨリ出來ルノガ
當然テ出來ナカツタナラハ大變困ル非常ナ物入り、違約ノ爲メニ
生シタ損害ヲ求ムルコトガ出來ルノハ勿論ノ話シテアリマス
長谷川喬君 「契約ノ目的ヲ達スル能ハサル場合」トアリマスガ「
コト」ガ遁入ツテ「達スルコト能ハサル場合」トナルノテハアリ
マセヌカ

穂積陳重君 是ハ全ク拔ケタノテアリマスドウゾ「達スルコト能ハ
サル」ト云フコトニ御改メテ願ヒマス

議長（西園寺侯） 夫レテハ本條ハ確定致シマシテ次ニ移リマス

（書記朗讀）

第五百四十一條

履行ノ全部又ハ一部ノ不能カ債務者ノ責ニ歸ス
ヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ爲スコ
トヲ得

（参照）財四二〇、獨一草三六九、同二草二七六

穂積陳重君 本條ハ相手方ノ責ニ歸スヘキ事柄ニ依テ履行ノ不能ガ
生シマシタ場合ニモ矢張り解除權ガアルト云フコトヲ規定致シタ
ノテゴザイマシテ本案ノ四百十四條テアリマシタガ粗ボ同シ規定
ニナツテ居リマス四百十四條ニハ債務者カ債務ノ本旨ニ從ツテ履
行ヲ爲サナイトキニ於テハ損害賠償ヲ請求スルコトガ出來ルト云
フ規定ガアリマシテ夫レカラ夫レニ後トカラ追加ニナリマシテ債
務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因テ履行ヲ爲スコトガ出來ナクナツタ
場合モ損害賠償ヲ求ムルコトガ出來ルト云フコトニナツタノテア
リマス併シ此債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因テ不能ト云フモノガ
生シマシタ場合ハ前ノ場合ニ於テハ損害賠償ト云フモノガ出來ル
ト云フコト丈ケテアリマシテ解除スルト云フコトハ必スシモ夫レ
ニ因テ生シテハ參リマセヌ五百三十九條ノ前ノ文ニ於キマシテモ

「當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハルトアリマス此「履行セサルトキハルト云フ文字ガドウモ不能ノ場合ガ一寸含ミ兼ネルノテアリマス四百十四條ヲ追加致シマシタノモ其通りテアリマシテ「其本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハルト云フコト丈ケテハ矢張り不能ノ場合ガ足ラヌカラト云フノテ後トカラ不能ノ場合チあそこニ入レマシタノテアリマス本案テハ五百三十九條ト同シ事柄チ此處ヘ當テマスル積リテ本條ヲ置イタノテアリマス
議長（西園寺侯） 別段御發議ガナクハ次ニ移リマス

（書記朗讀）

第五百四十二條

當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テハ契約ノ解除ハ其全員ヨリ又ハ其全員ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ解除權カ當事者中ノ一人ニ付テ消滅スルトキハ他ノ者ニ付テモ亦消滅ス

（參照）獨一草四三三、同二草三〇五、普國法一部一一章二

八〇、二八一、索九一〇、一一一六

穂積陳重君 本條ノ規定ヲ置クコトニ付テモ多ク述ヘルコトヲ要セマイト思ヒマス解除ニ依リマシテ其契約ガ全然ナクナリマシタ夫レカラシテ次ノ箇條ノヤウナ義務カ生スル斯ウ云フコトハ當事者ノ一方カ多數テアリマシタ時ニ一人々々ニ付テ其事柄ガ生シテハ甚タ實際上不都合テアラウ又然ウ云フコトハアリ得ナイモノテアラウト思ヒマス併シナカラ多數當事者ノ債權ノ場合ニ於テ一人ニ對シテ生シタモノハ外ノ者ニ對シテモ生スルト云フ規定カ多ク出テ居ルノテアツテ兎ニ角此場合ハドウモ明文ヲ要スルコトテアラウト思ヒマシテ此處ヘ置キマシタノテアリマス

箕作麟祥君 此全員ト云フノハ宜シイノテスカ總員テハナイノテス

カ

起立者 少數

議長（西園寺侯） 少數テゴザイマス他ニ御發議ガナクハ次ニ移リ
マス

（書記朗讀）

第五百四十三條

當事者ノ一方ガ其解除權ヲ行使シタルトキハ各
當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權
利ヲ害スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金銀ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附
スルコトヲ要ス

解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

（參照）財四〇九、二項、四二一、四二四、五六一、取八一、

佛一一八三、蘭一三〇一、一三〇二、伊一一六四、一一六

五、二項、葡六九七、瑞債務法一二四、モンテネグロ五四

八、獨一草四二七、同二草二九八、同商三五四、普國法一

部一章三三一、索九一一乃至九一四、一一〇九、巴草二

編三二六、三六二、三六八

穂積陳重君 本條ハ解除權行使ノ效果ヲ規定致シタモノテゴザイマ
シテ本案ノ中テ大切ナ箇條ノ一ツデゴザイマス、デ解除權行使ノ
結果ト云フモノハ通常是迄諸國ニ於キマシテハ所謂物權上ノ效果
トデモ申シマセウカにてるれ一ム、、、ト申シマシテ即チ當事
者ハ相手方ヲ原狀ニ復セシムルト云フ方テアツタノテゴザイマス
本案テ採リマシタ主義ハ此解除權行使ノ效果ハ即チ人權上ノ效果
テアリマシテ原狀回復ノ義務ヲ負フ彼ノおふりがツしよんいんて
ら一ぶ原狀回復ノ義務ヲ生セシムルト云フ方ノ主義ヲ採リマシタ
ノテゴザイマス、デ即チ此解除權ト云フモノヲ行フノハ前ノ法律
行爲ヲ根本カラ排斥スルノテハナイ法律行爲ト云フモノハ其儘元